



## 志津川のお地藏さん

8月末、陸前高田から石巻まで震災の被災地を見学しました。復興への足取りや、地域の方々の活力を感じたいと願っての旅でした。

陸前高田では、平地のかさ上げ工事が進んでいました。津波で流された地域を5メートルかさ上げする工事。土砂を山から運ぶコンベアが空中を走り、道路を走る車の半分はダンプカー。埋め立て地にいるような風景です。

奇跡の一本松や道の駅跡などの特定施設に震災の衝撃を感じますが、大規模な土木工事の衝撃に、震災跡の印象がかき消されそうになります。



中嶋哲夫の「人事も歩けば」

志津川には、最後まで避難放送が行われた防災庁舎跡が残されています。鉄骨だけしかありません。周辺の土地はかさ上げ工事中。人の気配が感じられない場所に残された4階建ての鉄骨。一角に献花台が設置され、線香と花が常備してあります。絶え間なく訪れる観光客のすべてが花を供え、線香を焚いて、お祈りをされます。筆者も、まず、手を合わせました。

合掌した後、献花台の横に木彫りのお地藏さんが2体あることに気づきました。誰が安置されたのかはわかりません。お子さんを失われた方でしょうか。そうせざるを得ない方がおられたのだと思います。その思いにも合掌をさせていただきました。

建物の背後では、かさ上げ工事の重機が動いています。鉄骨の手前ではお地藏さん。気



▲防災対策庁舎前に安置された木彫りの地藏

持ちを鎮める作業と気持ちを奮い立たせる作業が同時に行われている、そんな印象を受けます(石巻でもお地藏さんを見つけました)。

宿泊した松島の旅館の客室係の方は、「仮設住宅で暮らしている」と話してくださいました。震災時には病院で働いておられたとのこと。明るくお話ししてくださいましたが、さまざまな想いを抱えて働いておられるのだと思います。お話しくださることに質問をしたい気持ちでしたが、失礼になってはいけないと思い、それ以上のお話を聞くことはできませんでした。

私たちは社会的な役割を職場で果たしています。それが生きる糧にもなります。同時に、私たちは、いろいろな生活を抱えた人間です。復興と鎮魂が1人の人間のなかで同時に行われている。そのことを共感できる人事マンでありたいと、改めて思います。

(MBO実践支援センター代表)

